

ワンポイント GIGA通信

Vol. 6



今回のポイント：「端末のカメラで自身のフォームを録画
→視聴し、自身の動きを客観的にチェック
→改善につなげる」

ICTが苦手な人も
「まずはここから！」

①お互いに撮影し合う。



②動画を視聴し、改善のポイントを確認する。



★ 発展! (カメラ機能+αの活用)

「タイムシフト(遅延機能)、スローモーション機能」等を活用して、動画撮影→すぐに視聴し確認する。



【参考】
おおよまICT
活用実践事例集

★ 発展! 「家庭学習との連動」

「家庭でNHK for School等を活用し、『お手本動画』を事前視聴しておくことで、授業での試技の時間を多めに確保する。



【参考】
家庭学習と授業の
連動～1人1台端
末を活用して～



本実践で育成できる児童生徒の資質・能力

自己の変容を視覚的、客観的に捉えることで**課題が明確**になり、**フォームの改善につなげやす**くなります。また、動画を一時停止したり、スローモーションにしたりして繰り返し見ることができるので、**技能のコツや動きのポイント等視点を絞って友達と話し合う**ことができ、**気付きの質が高まり、学習の自己調整につな**がります。

本実践における教師のメリット

教師の一斉指導や説明の時間の削減ができ、授業時間を効率的にタイムマネジメントしやすくなります。**児童生徒が自身の判断で、話し合ったり改善したりする場面が増加**するので、教師は**支援が必要な児童生徒に手厚く声をかけたりサポートしたりする時間を確保**することができます。

「こんなときどうする？」端末活用 Q&A

- Q. 端末を、運動場等屋外に持っていく場合、端末の破損につながらないか心配です。
- A. 電子機器を屋外で使う場合「踏まれない場所、安定した場所におく」「砂埃がキーボード内に入らないようする」等の配慮が必要です。このようなルールを児童生徒と共通理解し、ICTリテラシーの一つとして身につけさせましょう。
- Q. 児童生徒が端末の画面を見ながら話し合っただけなので運動量の確保につながりません。
- A. 運動の実践においてICTを活用する場合は、「活動そのものの低下」を招かないよう留意することが必須です。「授業のねらいに沿わない活動」や「運動量の低下」等が気になった場合は、必要に応じた声かけや指導を行うと同時に、教師自身が単元計画を見直すことも重要です。

【参考】文部科学省「GIGAスクール構想のもとでの小学校体育科の指導について」
https://www.mext.go.jp/content/20211126-mxt_kyoiku02-000015512_taiiku_ts.pdf

